

Q 来庁者へのアンケート結果は A 全ての項目で9割以上の方が満足 している



佐藤定男議員

だった。職員の意識向上が見られたと考えている。また、一部ご指摘のあった点は改善できるところから対応してきた。今後とも町民視線に立ち、親切で役に立つ役場を目指したい。

問 今後も定期的なアンケート実施の考えはあるか。

総務課長 今後は結果を踏まえ、どのような調査を実施していくのが望ましいのかも含めて、必要に応じて検討していく。

問 国見の文化財や歴史を理解するための施策は

問 国見町は千年の歴史を持ち文化財、風物にも恵まれている。国見の魅力を内外に発信し「まちづくり」を推進する必要がある。文化財や歴史の理解を深めるための施策を伺う。

町長 文化財、歴史の理解を深めるための現在の取り組みは、3つの施策展開に分けられると考えている。1つ目は歴史の遺産の保存・継承のための詳細な記録、2つ目は国見の宝物・魅力を発信すること、3つ目はこれらを活用することである。今後とも、歴史まちづくり計画の具体化、文化財や歴史の理解を深めるためのさまざまな施策に取り組むと同時に、特に道の駅に来る方々をベールに観光交流の拡大に取り組み、町の活性化につなげたい。

問 群馬県に有名な「上毛かるた」がある。人物、地理、風物などが広く詠まれ小学生を中心に「かるた」を通じて歴史・文化が伝えられている。わが町もこのような観

点から「国見かるた」を作成してはどうか。小学生の段階から国見の魅力を学ぶことは郷土への愛着・誇りに繋がっていると考えている。「かるた」作成についての所見を伺う。

まちづくり交流課長 全国には「地域かるた」と称されるものが500種類以上ある。上毛かるたについては、教材にもなり、競技会も開催され、群馬県で浸透していったと聞いている。

国見町も歴史を生かしたまちづくりの中で、将来的に町民が歴史文化を理解する一助となるよう地域かるたの作成を検討していきたい。なお、国見町にも民話かるたや食育かるたがある。学童保育やイベントでの啓発で活用されている実績もある。

問 平成29年2月14日から3月13日まで来庁者へのアンケートが実施されたが、今回が初めてではないか。実施した背景、目的は何か。

総務課長 来庁者のニーズを把握し、職員の接遇、対応など町民サービスの向上を目的として実施した。新

庁舎に移って約2年が経過し、改めて来庁者のご意見を伺った。

問 アンケートの結果をどのように受け止めているか。

総務課長 「あいさつ」「言葉遣い」「要件への対応」などの全ての調査項目で9割以上の方が満足との回答

問 町民の満足度の合格ラインは考えているのか。

町長 町長就任以来、町民主役、町民の目線、町民ファーストで、職員としてまごころを持って対応するよう、総合案内や町民相談室の設置など様々な対応を行ってきた。アンケートの数字はひとつの指標であり、い

問 国見町は千年の歴史を持ち文化財、風物にも恵まれている。国見の魅力を内外に発信し「まちづくり」を推進する必要がある。文化財や歴史の理解を深めるための施策を伺う。

Q パークゴルフ場建設への考えは A 補助金を活用しスピード感を持って 進めていく



松浦和子議員

問 全国的な競技人口の増加、高齢者の健康維持、医療費の経費削減、来町者増などの視点から要望があったパークゴルフ場の建設について、どのように進めるのか伺う。

町長 発足当時の体育協会パークゴルフ部からゴルフ場建

設の要望を受け、2回ほど有識者を含め検討会を開催した。建設となればクラブハウスも必要となり、経費もかかる。国や県の補助金の活用、未利用地や既存施設の活用も含め、多方面の検討が必要不可欠と考えている。高齢者の健康維持、交流の促進などの面でパ

ークゴルフ場は必要性が高いと認識している。今後、検討会での議論を踏まえ、なるべく早い期間に整備できるように対応したい。



子どもから高齢者まで楽しめるパークゴルフ

職員の定時退庁に向けた改革は行われているか

問 町における働き方改革で町民が最も期待しているのは、職員の超過勤務の見直しである。超過勤務の申請方法と業務内容の確認、許可等の管理体制は。

総務課長 超過勤務が必要な場合、事前に所属長にシステム上で申請し、上司が確認して許可する。休日出勤の場合も同様だが、事前に課内で打ち合わせを行い、準備などに必要な時間を見込んだ上で所属長が超過勤務命令を行っている。

問 就業時間内の職員一人一人の業務日報の提出は行われているか。

総務課長 業務日報は特別に作成していない。管理職が業務を管理している。

問 最近では任期付職員の採用が多くなり、嘱託・臨時職員もがらばっているのに向に退庁時間が変わらないのはなぜか。健康管理の面からも効率の良いスピード感を持った業務遂行にはどのよ

うな改善をすべきか、バランスの取れた業務分担はなされているか、無駄はないかなど、「町民から信頼される職員とは」をしっかりと話し合い、定時退庁に向けた改革をやる気があるか伺う。

副町長 直接的なコミュニケーションで業務の整理が図れると考え、私自身職員への声掛けに努めている。業務改善に向けては、各課長からのヒアリングを通して全課の取り組み状況を確認している。様々な視点を持った職員が互いに切磋琢磨して将来の役場組織の基盤づくりを行う時期は今しかないと考えている。日々発生する新たな課題解決は管理職をベールにオール役場で取り組んでいく。